

皮膚科学（第2週目～第40週目）

1. 初日午前8時30分皮膚科第3実験室に集合し、BSL系の医師からオリエンテーションを受ける。実習に必要な「標本の見方と用語」および「皮膚科BSL用組織標本」をあらかじめ皮膚科ホームページ（<http://www.med.hirosaki-u.ac.jp/~derma/index.html> または「弘前大学 医学部 皮膚科」のキーワード検索からアクセス）からプリントアウトして持参すること。
2. 皮膚科BSL実習の最低限の目標：
 - ①皮膚病変の生じている部位および皮疹の性状を的確に表現できるようになること。
 - ②病棟で自分が受け持った患者や外来で予診をとった症例については、臨床所見の特徴や診断の根拠を理解すること。
 - ③皮膚病変の主な病理組織学的変化を理解すること。
3. 日程表を次頁に示す（都合により変更されることがあり、皮膚科学講座受付廊下ホワイトボードに掲示されることがあるので注意すること。）
4. 原則として9時半頃までは病棟実習、それ以降は外来実習とする。
5. 病棟では主治医とともに診療に参加し、積極的に処置などを行う。担当患者を割り振り、病棟症例検討会、総回診で発表してもらう。
6. 外来では新患の予診をとりカルテに記載し、自分で診断を考え、それを「診断用紙」に書き、カルテにはさんでおく。新患診察が開始されたら、自分が予診をとった症例について、どの部位にどのような皮膚所見があるかを口述する。自分が考えた診断の根拠あるいは治療について述べてもらうことがある。
7. 最終日に実習の総括として査問を行う。担当患者の治療内容・経過などやその疾患の基礎的事項について質問する。資料は担当主治医より提供される。査問の評価が著しく低い場合は実習を終了したとみなされないこともある。
8. 最終日に実習レポートを提出する。A4判の紙であれば手書き、ワープロいづれでも可。表紙は皮膚科ホームページからプリントアウトすること。レポートには毎日の実習で観察した皮膚疾患、勉強内容、感想、疑問点などを自由なスタイルで記載する。このレポートは教授、准教授、講師が評価する。単なる教科書の丸写しや、要点の箇条書きは低い評価となる。また、レポートを提出しない場合は実習を終了したとはみなさないので注意すること。
9. その他
 - ① 皮膚科BSL実習に際しては、予め「総論」と「各論」、特に「発疹学」の予習をしておくこと。実習初日には最低、皮膚悪性腫瘍、アトピー性皮膚炎、乾癬について教科書を読んでから臨むこと。
 - ② 常時メモを携帯し、経験した症例の性別、年齢および病名をただちに書き出す習慣をもつことが望ましい。
 - ③ 遅刻、欠席は速やかに届け出ること。2日以上休むと補修となるので注意すること。無断欠席及び遅刻は、再履修対象者とする。
 - ④ 図書室やコピー装置を利用したい場合は指導医（指導医不在の場合は他の医師）に申し出る。

日 程 表

	午 前	午 後*
月	オリエンテーション／病棟実習／ 外来実習	皮膚病理組織学実習（Ⅰ）
火	病棟実習／外来実習	病棟症例検討会（講座会議室）
水	病棟実習／総回診	皮膚外科手術見学 病理カンファレンス・症例検討会（外来）
木	病棟実習・外来実習	皮膚病理組織学実習（Ⅱ）
金	病棟実習・外来実習	皮膚病理組織学実習（Ⅲ）・査問

- 朝は原則として8：30に病棟へ集合。
- 水曜日は総回診日であるので、9：00に病棟へ集合。
- 夕方回診は5時開始予定だが指導教官の指示に従うこと。
- 火曜日は午後6時より勉強会、病棟カンファレンスあり。6時までに講座会議室に集合。
- 木曜日12時、教授と昼食会。時間までに会議室に集合
- 査問の開始時間、場所については当日正午までに受付入口横のホワイトボードに提示する。

* 午後の各実習、手術などの開始時間等は受付入口横のホワイトボードで確認のこと。